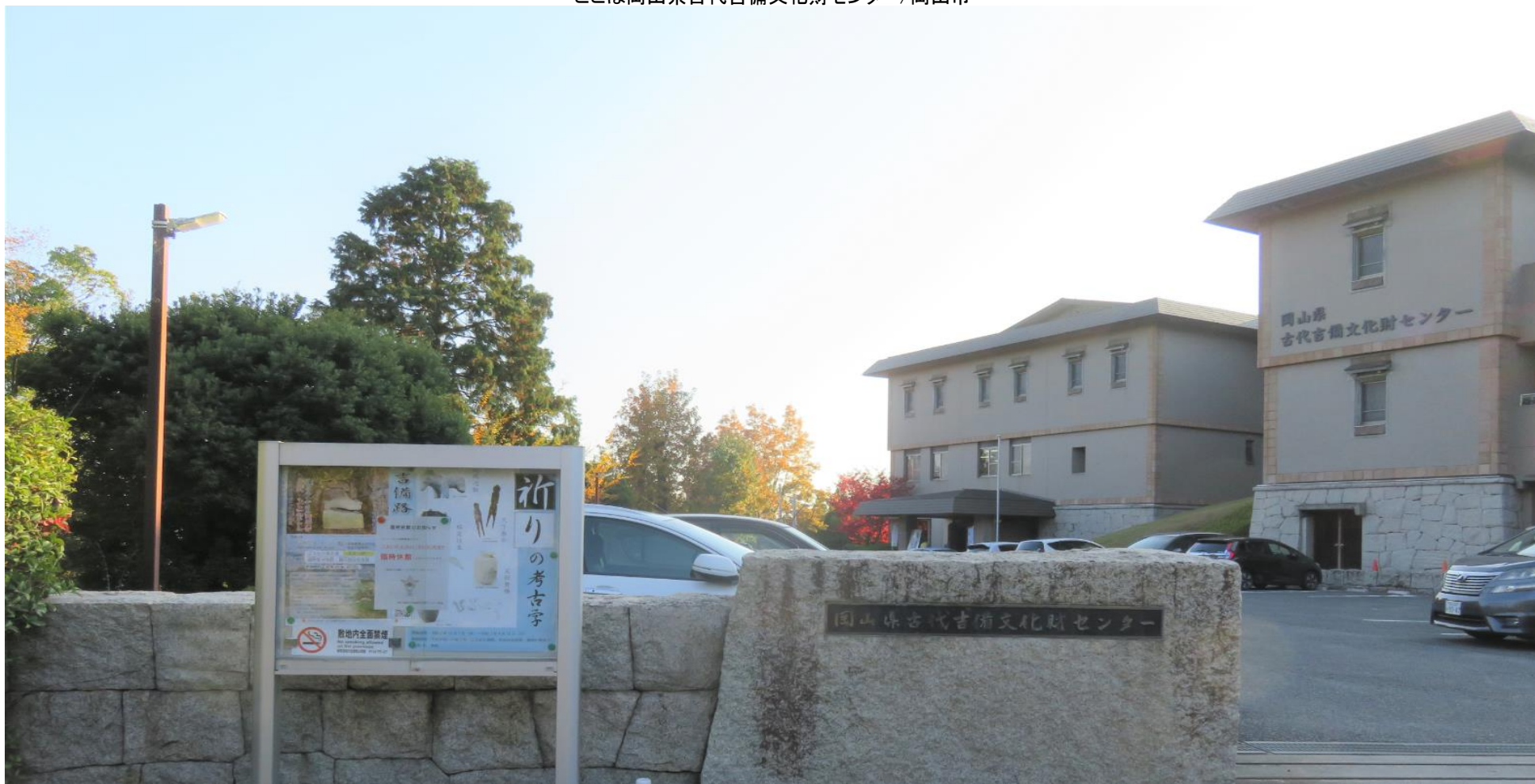


中山茶臼山古墳(岡山市)

ここは岡山県古代吉備文化財センター/岡山市



そのすぐ左後ろから、案内表示に従って中山茶臼山古墳へと向かう



少し登ると開けた場所に出た/この前方に中山茶臼山古墳が所在するようだ



「御陵」と記された案内表示があった



前方に鳥居(拝所)が見えて来た



ここは第7代孝靈天皇皇子の大吉備津彦命墓として宮内庁により陵墓に治定されている/その背後の木々の奥が中山茶臼山古墳の墳丘/古墳時代前期(3世紀後半~4世紀)築造の前方後円墳で手前が前方部、奥が後円部

[video](#)



四道将軍の一人である吉備津彦命の墓と云うことだが、宮内庁により厳重に管理されていて立ち入ることは出来ない模様



後を振り向くと、「国境石」なるものがあった/ここが古代の備中国と備前国との地境だったようだ

 video



フェンスに沿って右手から奥へ進んで行くと、墳丘が表れてくる

 video



奥の後円部辺りまで進むと、「門を開きお入りください」と記された扉があった/な〜んだ、入れるじゃん！



扉に貼ってあった説明書き/吉備の特殊器台(弥生時代)の系譜に繋がる都月型特殊器台が埴輪に転用された「都月型の特殊器台型埴輪」が出土していると記されている/後円部の辺りに八徳寺管理の「穴観音」と呼ばれる数個の自然石があり、拝めるようにとこの扉が開いていると云うわけだ

シリーズ
吉備の中山を歩く①

中山茶臼山古墳(御陵)と穴観音

吉備の中山のほぼ中央にある古墳時代前期(約西暦三〇〇年頃)の前方後円墳です。全長約120メートル、後円部の径は約80メートルの大型古墳です。四道將軍として大和から吉備国に派遣され、吉備を治めたとされる「大吉備津彦命の墓」と伝えられ、地域の人は御陵と呼んでいます。しかし吉備津彦命は第七代孝靈天皇の皇子であるため、天皇・皇后・皇太后・太皇太后を葬る所をいう「御陵」という名称は適切ではありません。

皇族の墓である可能性があるため宮内庁の管理下にあり、一般の人は立ち入ることができず、考古学的調査や発掘は行われていません。しかしこの古墳からは、都月型の特殊器台型埴輪が採取されており、古い時代のものでされています。

吉備津彦命が実在したかどうかはわかりませんが、この古墳の南側には「吉備の六海」と呼ばれる海が広がり、大



陸ともつながる海運の要所でもあったことから、被葬者はこの地域で大きな勢力を持った大首長であることは間違いないありません。

古墳の東半分は備前分、西半分は備中分と備前国と備中国で仲良く半分ずつになるよう国境を決めています。



※穴観音あなかんの
中山茶臼山古墳の後円部の東側に、穴観音と呼ばれる数個の自然石があります。中央の石には観音像が彫ってあり側面には口径20cm深さ16cmの穴があいており、名前の由来になっています。

この穴に耳を当てると「観音様の声が聞こえる」「潮騒(潮が満ちている時の波の音)が聞こえる」という古い言い伝えが残されています。

観音様を拝む正面に立つと、その前方には中山茶臼山古墳後円部の頂部があります。このことから穴観音は、中山茶臼山古墳の埋葬者を拝む時の磐座であることがわかります。

穴観音の管理は、八徳寺を管理している尾上天台講中の方がなされています。入り口の扉を開き、是非お詣りください。
(熊代 建治)

中に入って、「穴観音」とその説明板を見たところ/背後は後円部(左手が括れ部・前方部)



この説明板には築造が(五世紀頃)と記されているが...

穴 観 音

主石と考えられる自然石(花崗岩)の正面を船形に彫り沈めて仏像を半内に現し、石の左側面には口径二十センチ、深さ一六センチ、底径四センチほどの穴が窺われるが、仏像も穴も現状が判らぬ程風化し痛みも烈しい。

昔からの言伝えて側面の穴に耳をあてると観音様のお声が聞こえると言う俗信仰があつて、昔から縁日には参拝客が多い。

私見ではあるが、この岩石群は茶臼山古墳築造時(五世紀頃)からこの位置にあり、原始的祭祀行事の場と思われ、正面の仏像は観世音菩薩ではなく大日如来像である。

一宮地域活性化推進委員会



中山茶臼山古墳の被葬者を拝む際の磐座ではないかと云う

 video



正面が後円部



その左手の括れ部

 video



更に左手の前方部を見たところ/さすがに墳丘に近づくことは「自粛」しました



さて、岡山県古代吉備文化財センターへ戻って館内展示を見学/これは新見市西江遺跡出土の特殊器台

 video



「祈りの考古学」と題した令和2年度企画展2のブース

 video



参考ホームページ

<https://www.city.okayama.jp/museum/kofun1/09.html>

<https://kofun.info/kofun/1563>

<https://tabi-mag.jp/ok0295/>

<http://blog.livedoor.jp/geibi/archives/52066726.html>

<http://kamoichi52.blog.fc2.com/blog-entry-64.html>

<https://blog.goo.ne.jp/noda2601/e/8591ddf206c862145e29a49f51865c55>

